

地震から今まで

関 美沙紀

十月二十三日 朝 とても静かだった。い
つもなら、鳥の鳴き声が聞こえるのに。変だ
と思った。空がとても赤かった。地震がくる
のかなあと思った。
「でも、また小さいゆれだろう。」
じつは、山古志村は一カ月前から、震度3こ
4くらいのゆれが続いていたのだ。

山古志小学校

「ガタガタ・ゴォー・ゴォー・バキバキ。ガッ
ッ・イン・ドーン。」
いろいろな音が聞こえた。外に出てみると、
見たこともない景色があった。山がくずれて
動き、くずれた土で川がせき止められた。そ
れに、道が割れ、木がたおれていた。
その中に、3びきの子犬と犬がいた。マリ
達だった。その3びきの子犬とマリは、闇の
中にある小さな光のように、まるで夜の月の
ように見えた。

三日後、ヘリコプターで村を出た。最初は小千谷市総合体育館についた。人がいっぱいいた。たくさんの人が電話をかけていた。その日の夜おそくなり明德高校に移動した。

何日かたって、長岡高校に行った。友達がいいた。ついに、学校へ行く日になった。とってもきんちようした。

学校についた。とってもピカピカな校舎だ。

山古志小学校

大きいグラウンドやアリーナ。山古志小学校とは、おおちがい。

ここにきて、最初の学習が阪之上小学校の人の交流だ。いっぱい人がいてびっくりした。名し交かんをした。あ、という間になくなった。

「たくさん友達をつくりたい」。

そう思った。そして、何カ月の避難所生活が終わり、仮設住宅に移った。学校へは、バス通学だ。

仮設住宅にきて変わったことがある。それは地域の人との交流だ。例えば、フェスティバルに行ったり、一緒に遊んだりしてとても楽しかった。

最後に、支援してくださって、ありがとうございます。こざいます。同じ被書にあって、同じ気持ちだと思えます。これからも協力あって、がんばっていきましょう。

山古志小学校